

令和5年度（2023年度）公共事業再評価調書

（様式3）

基準年月日 令和5年8月1日

調書番号	08-18	所管部	建設部	作成責任者	土木局河川砂防課砂防災害担当課長 寺越 孝則
				担当係	砂防係（内）29-401

I 基本事項（基準日時点）

事業種別	通常砂防事業費（社会資本整備総合交付金）				
ふりがな 地区名	あつないがわ 厚内川	市町村名	浦幌町	総事業費	4,200 百万円
負担割合	国 50.0%	道 50.0%	市町村	その他	
	2,100 百万円	2,100 百万円	百万円	百万円	

事業目的・目標	<p>●厚内川は、厚内川水系に属する二級河川であり、現在、流域内に砂防堰堤が6基設置されているが、いずれも満砂もしくは堆砂が進行しており、今後の出水により下流域への土砂・流木の流出が懸念される。</p> <p>●このため、H25年度（2013年度）に本事業が採択され、遊砂地工、砂防堰堤工、流木捕捉工、山腹工の整備を行い、人家や公共施設などを土砂災害から防止する。</p> <p>【アウトカム】等</p> <p>●土砂災害により被災するおそれのある家屋数 106戸→0戸</p> <p>●土砂災害により被災するおそれのある耕地面積 52.8ha→0ha</p>				
---------	--	--	--	--	--

事業概要	厚内川通常砂防事業は、土砂災害から人家や避難所を守るため、砂防設備（遊砂地工、砂防堰堤工、流木捕捉工、山腹工）の整備を行うものである。	工事費内訳		(百万円)	(百万円)	(百万円)
				前回評価	今回評価	増減額
			遊砂地工 N=2基	125	240	115
			砂防堰堤工 N=3基（新設1基、改良2基）	372	387	15
			流木捕捉工 N=2基	114	182	68
			山腹工 N=1箇所	1,016	2,770	1,754
			測量設計費 調査・設計	293	600	307
			用地補償費 用地買収・物件補償	10	21	11
			計	1,930	4,200	2,270

総合計画での位置付け	総合計画の体系	大項目	中項目	小項目	施策名
		生活・安心	強靱な北海道づくりとバックアップ機能の発揮	大規模自然災害に対する北海道自らの脆弱性の克服	大規模自然災害対策の推進（強靱化）

特定分野別計画等での位置づけ	施策目標・方針	【計画名：北海道強靱化計画 P26】 （砂防設備等の整備） 土石流危険渓流や急傾斜地崩壊危険箇所など土砂災害の恐れのある箇所について、近年の災害発生状況や保全対象などを勘案し、砂防設備や急傾斜地崩壊防止施設、地すべり防止施設等の整備を推進する。
関連する指標	土砂災害から保全される人家戸数	約2.5万戸（2018） → 約2.7万戸（2022）

II 公共事業評価経過

（単位：百万円）

事業経過	事業採択	着手	評価年度	完了予定	経過年数	事業費	総事業費 (a)	道負担額	当該年度事業費	累計事業費 (b)	進捗率 (b)/(a)
							980	490			
	事前評価又は当初 (2013)			H30 (2018)							
	前回再評価 (2013)	H28 (2016)	H30 (2018)	H38 (2026)	10	1,930	965		574	30%	
	今回評価		R5 (2023)	R12 (2030)		4,200	2,100	430	1,812	43%	

変更理由・内容（概要）	(1) 山腹工本工事における施工量が増えたことによる増額及び事業期間の延伸 (2) 植生基材吹付工厚さ変更による増額 (3) 地形調査及び荒廃状況調査による増額 (4) 残土受入地変更に伴う増額 (5) 資材・労務単価の上昇による増額 (6) 残事業費の施工期間を精査したことによる事業期間の延伸
-------------	--

III 事業採択前の状況

1. 事業採択に至る経過と背景	●市街地に位置する厚内橋付近で流出土砂が著しく堆積し、平成20年に除石したものの、平成23年10月の豪雨により再び土砂が堆積された状態であることから、今後の豪雨により土砂災害が発生する危険性が高い。 ●土砂氾濫区域内に人家や公共施設などがあり、砂防設備の整備が必要である。
2. 事業検討の経緯（住民ニーズの把握等）	●H24年 浦幌町からの事業要望。 ●H25年 厚内川砂防事業着手。
3. 事業効果を及ぼす地域・対象	●浦幌町厚内地区 人家99戸→106戸、事業所26件→20件、避難所1箇所（厚内公民館）、浦幌消防団第三分団詰所、厚内駐在所、厚内郵便局、道道1.3km→0.4km、鉄道3.5km、農地52.8ha、橋梁4基
4. 関連する事業	事業名 事業主体 事業期間 事業費（百万円） 事業内容

IV 事業の実施状況

(1) 事業実績及び今後の計画															
施工(工種)区分	工事内容	H25	~	H28	~	R5	R6	R7	R8	R9	~	R12	進捗状況	事業費(百万円)	
遊砂地工	N=2基										←	N=2基	→	0%	240
砂防堰堤工	N=3基(新設1基、改良2基)										←	N=1基	→	0%	387
流木捕捉工	N=2基										←	N=2基	→	0%	182
山腹工	N=1箇所													52%	2770
測量設計費	実施設計・地質調査等													92%	600
用地補償費	用地買収等													55%	21

(2) 進捗状況

令和12年度完成予定。
山腹工の施工に時間を要し事業期間を延伸したが、今後の実施にあたって特に大きな支障となるものはない。

b

a: 概ね予定どおり実施している。 b: 事業計画・期間等を変更し実施する。
c: 問題が生じ、実施に支障をきたしている。

経済効果の内訳(百万円)		費用の内訳(百万円)		備考
項目	R5 現在	項目	R5 現在	
被害軽減効果	7,128	建設費	3,818	●「治水経済調査マニュアル(案)」(国土交通省R2)「砂防事業の費用便益分析マニュアル(案)」(国土交通省水管理・国土保全局 砂防部R3年1月)に基づき算出。 ●効果は、土砂災害における直接被害額(家屋、公共施設、農地等)及び間接被害額(営業停止被害等)により年平均被害軽減期待額を算出。 ●効果および費用は、R5に現在価値化し、「整備期間+完了後50年間」で算出。
		維持管理費	3	
合計(B)	7,128	合計(C)	3,821	
B/C	前回算定年度 : H30年度(2018年度)【再評価】 前回算定時B/C : 2.67(合計(B): 4,462 合計(C): 1,674)			
R5 現在	変更理由 ・事業費の増額に伴う費用の増加 ・「治水経済調査マニュアル(案)」及び「砂防事業の費用便益分析マニュアル(案)」の改定に伴う便益算定方法の見直しによる効果の増加 ・事業所の減による効果の減少			
1.87				

取組の項目	取組内容	縮減額(百万円)
資源循環の促進	すき取り土を法覆土に有効利用することによるコスト縮減	5

V 評価

1. 必要性	<ul style="list-style-type: none"> ● 本事業は、土砂災害から地域住民の生命、財産を守ることが目的であり、その事業効果が大きい。 ● 今後の出水により下流域への土砂や流木流出が懸念されるなど、土砂災害が発生する危険性が高い。 ● 事業の必要性に変化はなく、着実に事業の推進を図る必要がある。
a	a: 事業の必要性に変化はなく予定どおり事業を推進する。 b: 着工後の状況変化により事業計画の変更が必要である。 c: 着工後の状況変化により事業推進の是非を判断する必要がある。

2. 事業を推進する上での課題	(1) 環境上の配慮及び課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 砂防堰堤の法覆工に現地発生のすき取り土を用いることで、在来種による緑化を促し、自然環境に配慮している。
	(2) 事業推進に対する地域の動向・意向	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業着手時から継続して、浦幌町から事業推進を要望されている。 ※前回の再評価以降における状況変化はない。
	(3) その他の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 特になし ※前回の再評価以降における状況変化はない。

3. 事業達成の見込み	前回評価から事業期間を4年延伸しているが、事業の必要性に変化はないほか、事業を推進する上での課題もないことから、事業達成が見込まれる。
a	a: 現時点では事業の進捗に影響する課題はなく、達成が見込まれる。 b: 課題はあるものの達成は可能である。 c: 大きな課題があり達成には相当の困難が予想される。

4. 対処方針	事業の必要性に変化はなく、地元からの早期完成要望も受けているため、令和12年度(2030年度)の完成を目指し、事業継続する。				
a	a: 継続	b: 終了	c: 休止	d: 中止	
事業期間変更の有無	有	事業内容変更の有無	無	総事業費変更の有無	有

VI 備考

1. 評価履歴	【評価結果】 事前評価： 該当なし 再評価： 平成30（2018）年度評価 評価結果： 継続（変更なし） B/C=2.67
	【特記事項】
2. その他の取組事項	

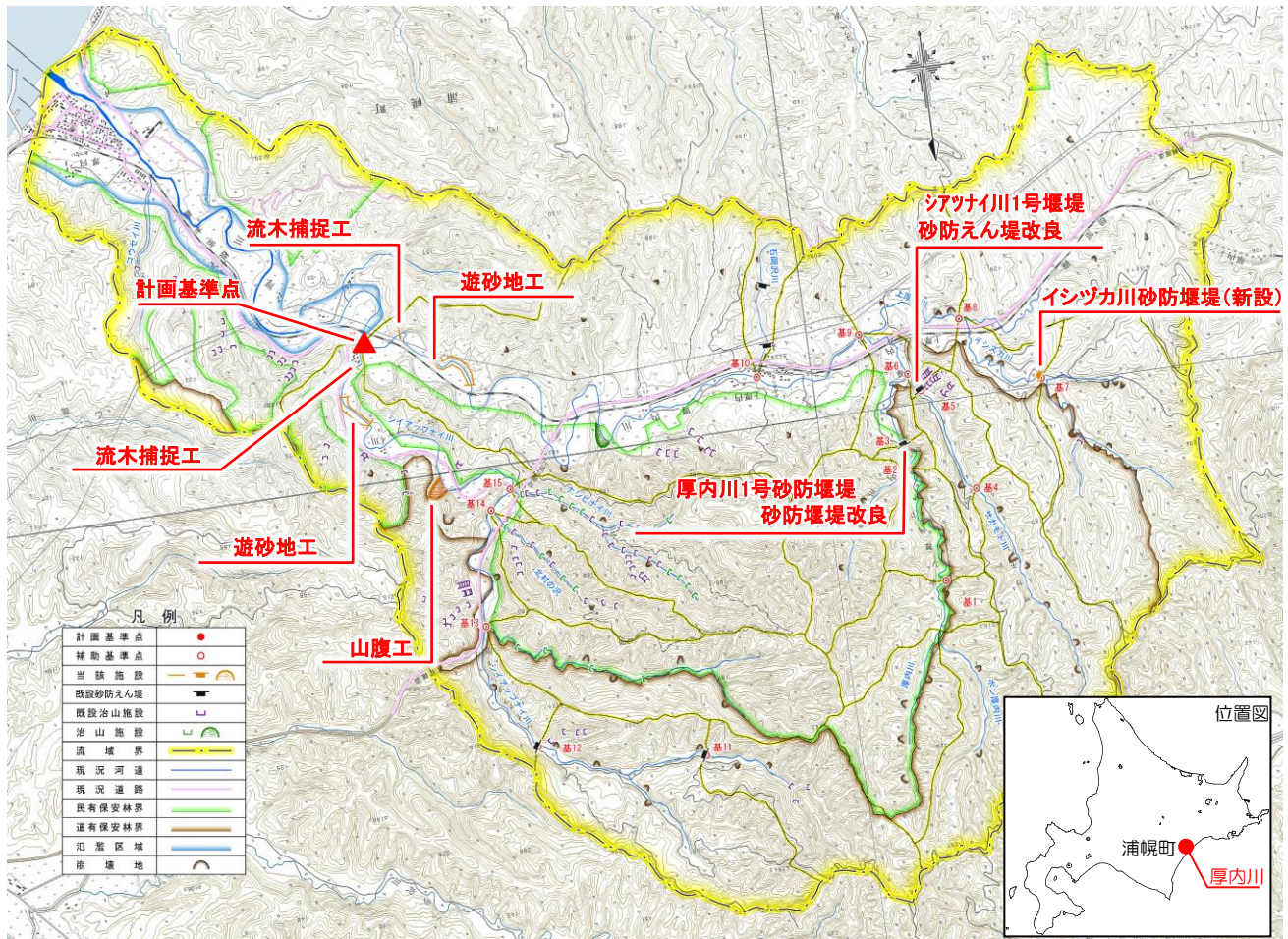
補足資料

VII 事業計画変更 （単位：百万円）

事業経過							事業費			
	再評価	事業採択	着手	評価年度	変更年度	完了予定	総事業費 (a)	当該年度 事業費	累計事業 費 (b)	進捗率 (b)/(a)
事前評価 又は当初		H25 (2013)				H30 (2018)	980			
変更①					H26 (2014)	H30 (2018)	970			
変更②					H27 (2015)	H33 (2021)	1,650			
変更③			H28 (2016)		H28 (2016)	H38 (2026)	1,836			
変更④	1回目			H30 (2018)	H30 (2018)	H38 (2026)	1,930			
変更⑤	2回目			R5 (2023)	R5 (2023)	R12 (2030)	4,200	430	1,932	46%
変更⑥										
変更⑦										
変更⑧										
変更⑨										
変更⑩										

変更理由・内容	<p>変更①：事業費の減 ～平成26年に詳細な地形測量、現地調査を実施し、発生土砂量・流木量を精査し、施設計画の見直しを行ったことによる。</p> <p>変更②：事業費の増及び事業期間の延伸 ～地質調査の結果、山腹工の対策範囲の拡大及び対策工法の変更が必要となったことによる。</p> <p>変更③：事業費の増及び事業期間の延伸 ～現地測量及び堰堤改良設計の結果、既設林道付け替えや仮設道路工などの検討が必要となったことや、農期に配慮した施工時期の調整が必要となったことによる。</p> <p>変更④：事業費の増 ～資材、労務単価の上昇による。</p> <p>変更⑤：事業費の増及び事業期間の延伸 ～山腹工本工事の施工を進めた結果、想定以上の斜面掘削や吹付法砕工が必要になったことなどによる増額 ～地形調査及び荒廃状況調査による増額 ～残土受入地変更に伴う増額 ～資材・労務単価の上昇による増額</p>
----------------	---

厚内川 通常砂防事業 (社会資本整備総合交付金)

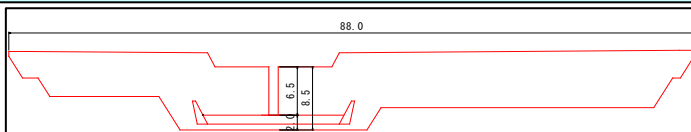


事業の目的

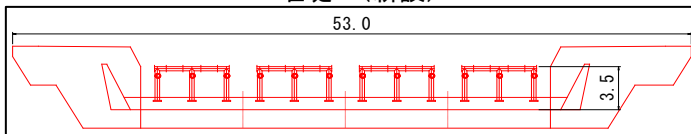
- 厚内川は、厚内川水系に属する二級河川であり、現在、流域内に砂防堰堤が6基設置されているが、いずれも満砂もしくは堆砂が進行しており、今後の出水により下流域への土砂・流木の流出が懸念される。
- このため、H25年度(2013年度)に本事業が採択され、遊砂地工、砂防堰堤工、流木捕捉工、山腹工の整備を行い、人家や公共施設などを土砂災害から防止する。

事業概要

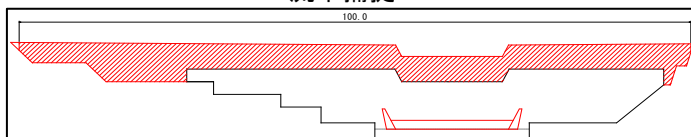
厚内川通常砂防事業は、土砂災害から人家や避難所を守るため、砂防設備(遊砂地工、砂防堰堤工、流木捕捉工、山腹工)の整備を行うものである。



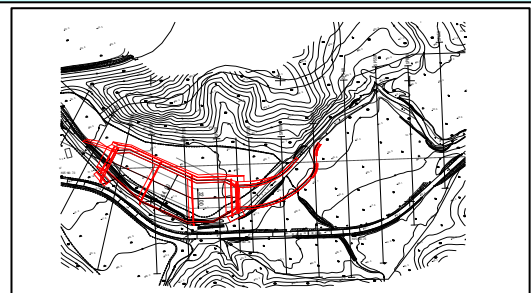
堰堤工(新設)



流木捕捉工



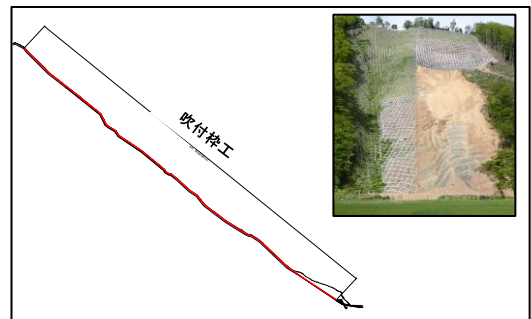
堰堤改良工



遊砂地工



大規模崩壊地、土砂・流木の堆積状況



山腹工